

令和元年度第3回野洲市社会教育委員会議（概要報告）

会議日時	令和元年12月13日（金曜日） 午前10時～正午
会議場所	人権センター 交流研修室
出席者	社会教育委員：高木委員長、水島副委員長、八木委員、北脇委員、今井委員、駒井委員、政本委員、森井委員、白石委員 事務局：西村教育長、杉本教育部長、川端教育部次長、渡邊学校教育課長（学校教育担当次長）、田中生涯学習スポーツ課長、宇都宮図書館長、井狩こども課長、中川生涯学習スポーツ課長補佐、広沢生涯学習スポーツ課主査
傍聴人	なし

●議事

(1) (第3次)野洲市子どもの読書活動推進計画の策定について

○事務局より説明

・前回会議からの主な変更箇所について説明した。

- ①第2次計画で設定した目標値から見た達成状況に加え、新たに開始した事業について加筆した。
- ②読書を通して、読み解く力を身につけることになること。そのためには家庭、地域、学校・園が協力・連携することが必要であることを加筆し、基本方針のイメージ図に家庭、地域、学校・園それぞれの役割と取組例を追書した。
- ③目標値の設定で、小中学校での一斉読書実施率を子どもの読書活動に関する調査における不読率に変更した。また、子ども1人当たり児童図書貸出冊数の計算式を野洲市民が借りた児童図書の貸出冊数÷0～12歳の野洲市人口とした。

◎主な発言（◇：委員、◆：事務局）

- ◇司書教諭は学校図書館に常駐しておらず、そのことだけをしているわけではない。学校図書館の有効活用とは、それだけでなく目に見えて活性化される訳ではない。
- ◆司書教諭のみでは活性化は難しい。そこで、ボランティアの活用や野洲図書館のノウハウの活用などで徐々に考える。
- ◇学校の独自性の中で起点となる人が必要である。
- ◇不読率については、数字を上げるだけなら朝の読書をすれば上がるがそれだけでなく、学校では、機会を増やすことで図書室で情報が得られることもある。そのために図書室の整備が大切である。
- ◇色々なアイデアで何が出来るかであり、そこは学校ごとに違う。
- ◇図書室にボランティアなど誰かいるだけで違うのでその充実と大人が本を読むことで子どもも読むそのことを盛り込んでどうか。また、守山市の読書通帳のようなきっかけ作りも必要である。
- ◇子どもの問題は、大人の問題でもある。人と人とのつながりが学びのきっかけになる。

- ◇スマホでもよいのか。本を読んだ数に入っておらず見えないのでは。守山市の読書通帳のような工夫やボランティアによるおはなし会などの機会が毎日あれば良い。
- ◇学校のパソコン教室での調べ学習もあるのでは。
- ◇パソコン教室が常に休み時間に空いているわけではなく、ボランティアに入ってもらっているが週1回程度である。タブレットの活用によりパソコン教室以外での機会が増えると考える。
- ◇買って読んだ本は、貸出冊数にカウントされない。野洲図書館には、巨大絵本などたくさんあることや選書も教えてくれることを親が知らないので、そこを広げていきたい。ちょっとした時間の活用で読む機会は作れるのでアイデアを活かすこと。そして、親に巨大絵本のことをアピールして野洲図書館に本を借りに行く親をつないでいきたい。
- ◇自治会館に、子どもの図書室があったが子どもが減ったからか利用がないので閉鎖された。子どもの読書活動について自治会から手を伸ばす方法はわからないが、地域で考えていきたい。
- ◇自治会では、自治会館の活用が課題で保護者の地域への関わりが減っているのか、子どもが自治会館を使うことは少ない。コミセンも含め子どもが楽しめる・子どもで賑わいを作り、その中で読書を入れていければ考える。
- ◇地域特性に合わせて本を置くなどすると興味を持ってもらえる。
- ◇幼児期が大切で本の楽しみ、そこからの広がりやブックスタート時の親への指導などあれば良い。先ずは親からである。
- ◇家庭の部分は難しいところで、丁寧にバランスよく子どもを育てることが大切である。
- ◆園の取組で、保護者の一日保育士体験の中で読み聞かせをして読書の大切さを学んでもらっている。
- ◇子どもの声を聞き、工夫をすることも大切である。
- ◇野洲図書館のイベントを活用すると、興味のある人は集まり本を借りる。
- ◇どのように実践して計画を推進していくかである。

(2) (第3次) 野洲市子どもの読書活動推進計画策定スケジュールについて

○事務局より説明

- ・本日のご意見等を参考に委員長と協議して庁内協議を経て、計画(案)としパブリックコメントを令和2年2月1日から2月21日の3週間実施する。
- ・次回(3月25日)の会議にて計画の最終報告をする。

(3) 野洲市生涯学習振興計画(第2期)のめざす姿「次代の地域の担い手の育成 ～豊かな地域社会に～」について

○委員での意見交換

◎主な発言

- ◇人のつながりを点から線さらに面へとつなげ、10年後・20年後の野洲市のために人材を活用することが必要である。
- ◇バドミントンの指導で、運動嫌いにならないように遊びを入れている。送迎の保護者も一緒にプレーしてもらおう。一緒にしてくれる親が次のスタッフとなるようにということと教え子が地域に帰ってくる子を育てることを考えている。
- ◇バレエの発表で地域の敬老会に呼んでもらうが、その地域の子どもが何かをするということがない。子どもは大きくなるにつれて世界が広がり地域に帰ってこない。子ども達自身が、地域で活かし活かされているということを肌で感じると地域に帰ってくる。
- ◇子どもにお膳立てをして来てもらうケースが多い。中学生になると仲間がいないと地域に関ってもらえず地域とつながらない。地域のことを好きになってもらえるような感性を持ってもらえるようにと考える。
- ◇自治会活動のアピールをしているが、若い人になかなか加わってもらえない。地域のためと思って活動してくれる人は少ない。何が嫌なのか本音を話してほしい。障壁を解決することが新しい時代へとつながる。地域の行事に子ども達が本当に参画しているのだろうか考える、解決策はなかなか見出せない。
- ◇次の担い手づくりには楽しむことでそこからつながっていく。学校応援団活動で子どもと地域をつなげていければと考える。
- ◇学校応援団のことやボランティアの活動があることを親が知らない。学校側もうまく発信していない。ホームページは、興味のある人しか見ない。どのような活動でも親がしないと子どもはしないので、まずは親の姿勢からである。
- ◇子どもを通して発信することが良い。他にはグループや口コミで広がる。
- ◇次代の地域の担い手の育成については、これからも情報共有してその結果として社会教育委員の役割になるかと考える。

(4) 第3期野洲市地域福祉計画策定委員の推薦について

- 水島副委員長を推薦することに決定した。

◎次回会議 令和2年3月25日(水) 午後1時30分から